

アブラナ科 カキネガラシ属

ケカキネガラシ (毛垣根芥子)

Sisymbrium officinale (L.) Scop. var. *officinale*

自生環境

道ばた、荒れ地、河川敷 など

原産地

ヨーロッパ

予想される被害

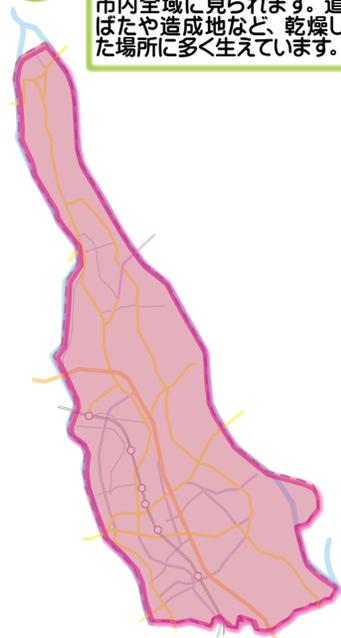
駆逐



大きな草で繁殖力も強いので、他の植物の生育場所を奪ってしまう可能性があります。市内では河川敷にも多く見られ、主に河川敷に生える希少種への影響が心配されます。

市内の分布状況

市内全域に見られます。道ばたや造成地など、乾燥した場所に多く生えています。



特徴

- ☆ ヨーロッパ原産ですが、世界じゅうに広がっている越年草です。日本には明治時代に渡来し、日当たりのよい乾燥した場所にたくさん生えています。
- ☆ 春から夏にかけて、直径 4mm ほどの小さな黄色い花が付き、咲き進むとともに茎がどんどん長くのびていきます。果実はツノのような細長い形をしています。茎にぴったりとくっつくように上向きにつき、独特の姿となります。慣れると遠目からもすぐに分かるようになります。
- ☆ 茎や葉、果実には毛が多く生えていますが、中には毛がほとんど無く、光沢があるように見えるタイプがあります。これをハマカキネガラシと言い、市内にもときどき見出されます。ケカキネガラシとハマカキネガラシを区別せず、まとめてカキネガラシと呼ぶこともあります。

歌手の草とも呼ばれる

草全体に、マスタードのような独特な香りがあり、海外ではこれをソースにして料理に使います。またケカキネガラシの新鮮な葉とクレソン（オランダガラシ）からつくったうがい薬は、のどの炎症をしずめ、枯れた声を元通りにするはたらきがあるとされています。そのことから、ケカキネガラシには Singer's plant、すなわち「歌手の草」という別名もあります。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

